

松戸市社会教育委員会議会議録

令和元年度第4回

令和元年度第4回 松戸市社会教育委員会議

○令和元年12月12日（木曜日）

○出席委員

山崎副委員長 齋藤委員 竹中委員 小熊委員 山口委員 森委員
大橋委員 神谷委員 三島委員

○市側出席者

臼井図書館長 齋藤館長補佐 柿沼主幹 左海主任主事
井之浦社会教育課長 藤谷補佐 齋藤主幹 池田主任主事 松木主事 荻村主事

○次第

1 委員長挨拶

2 議 事

(1) 松戸市子どもの読書活動推進計画案の策定について

(2) 第二次松戸市社会教育計画の策定に係るアンケート結果報告について

(3) 第二次松戸市社会教育計画の策定に係るフォーラムの開催について

3 その他

◎開 会

山崎副委員長 では、初めに、本日の会議は松戸市情報公開条例に基づき公開の対象となっております。本会議を公開としてよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

山崎副委員長 異議なしということで、では、次に傍聴人の状況について教えていただけますか。

事務局 傍聴についてご報告いたします。

本日の社会教育委員会議に傍聴を希望する方はおりません。

山崎副委員長 わかりました。

では、議事に入ります前に、第4回、この会議の議事録の署名につきましては、私、副委員長の山崎とともに、大橋委員のほうにお願いしたいと思います。

(「はい」の声あり)

◎松戸市子どもの読書活動推進計画案の報告について

山崎副委員長 では、議事に入らせていただきます。

本日の議事は3つございます。1つ目が、松戸市子どもの読書活動推進計画案の報告について、2つ目が、第二次松戸市社会教育計画に係るアンケート結果報告について、3つ目が、第二次松戸市社会教育計画に係るフォーラムの開催についてです。

議事の1と2については報告ということでありますので、説明がメインとなりますが、議事の3は意見聴取をしたいということですので、委員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

では、初めに議事の(1)松戸市子どもの読書活動推進計画案の報告についてです。前回、8月の会議で素案をお示しいただいた松戸市子どもの読書活動推進計画について、その後の経過も含め、図書館長より説明していただけますか。お願いいたします。

臼井図書館長 図書館長でございます。よろしくお願いいたします。それでは、松戸市子どもの読書活動推進計画案についてご報告いたします。

第2回の委員会及び委員会後に計画に関するご意見を賜り、ありがとうございました。10

月31日付けの文書にて中間報告をさせていただきましたが、委員の皆様からの意見及び関係課からの意見を踏まえ、評価指標の変更や文章の変更を行いました。本日は、その内容を反映した最終案をお配りさせていただいております。なお、ご意見の一覧については10月末に各委員に、事務局の考え方として送付させていただいておりますので、おのおのについてはここでのご説明は割愛させていただきます。

それでは改めて、ご意見をもとに評価指標を変更した点についてご説明申し上げ、今後の流れについてご報告いたします。お手元の資料1、計画案の9ページ及び、資料2の評価指標新旧対照表をあわせてご覧ください。

まず、当初案として、本に親しむ機会の充実の中で、おはなしボランティア派遣回数を盛り込んでおりましたが、こちらは本来の目的は、おはなし会の参加者人数の増加にあることから、削除いたしました。

次に、よりよい環境の整備としまして、図書館と連携している保育園・保育所・幼稚園・認定こども園・支援施設の割合でございますが、団体貸し出し総数に変更しております。こちらは年々施設の数が増えている状況で、割合の推移を測ることが難しいこと、連携をはかる指標が、施設に本を貸し出す団体貸し出しであることから、変更させていただきました。

続きまして、よりよい環境の整備として、図書館と連携している小学校、中学校の割合につきましては、小学校、中学校それぞれ、学校貸し出しを利用している割合に変更してございます。こちらは、連携という言葉が示すものが曖昧であることから、図書館で行っている学校貸し出しに限ることで、全ての学校が等しく事業を活用することができるような指標とし、必要な体制の構築に取り組んでまいります。

計画案の変更については、以上でございます。

最後に、今後のスケジュールについてご説明させていただきます。

年明け1月7日火曜日から2月5日水曜日までを期間としてパブリックコメントを実施し、市民の皆様から意見を頂戴したいと考えております。その後、必要に応じて案の修正等を行い、3月に策定というスケジュールを考えておりますが、会議の日程の都合上、次年度の第1回社会教育委員会会議にて報告させていただきたいと思っております。

説明は以上でございます。よろしく願いいたします。

山崎副委員長 ありがとうございます。

ただいま図書館長から説明がありましたが、今回は報告ということでございますけれども、皆さんのほうからご質問等がありますか。

森委員 森でございます。同じページなのですが、目標値のところは令和6年度松戸市になっておりますが、こちらの6年度というのは、何か図書館側としての意図があるのでしょうか。例えば、計画のスタンスであるとか。

臼井図書館長 計画の期間というのが令和2年から令和6年度までということになっておりますので、全ての指標は令和6年、最終の年にどうなっていたかということが指標になっていきます。

森委員 ありがとうございます。

山崎副委員長 ほかにありますか。

神谷委員 神谷でございます。令和3年に東松戸に図書館と、それから中高生の居場所との合築された施設の計画があるかと思えます。この中身について、私どもの大学の長江とか有川もこれから可能性について議論したりすると思うのですが、言ってみれば、スタイルとしては合築している場合にいろいろな課題があるわけで、独立しての建物とは違う利用の仕方、あるいは、事業のありよう、そういったものをいかに子どもわかもの課と図書館が連携していくのか、そのあたりについての将来像はいつごろお示しいただけるでしょうか。建物の構造等については、おおよそ出ているということを企画課のほうからお話を伺っているものですから、当然それに合わせて事業的なことも進行しているのではないかということ、いつごろお示しいただけるかという質問だけでございます。

当然のことですけれども、先ほど、令和6年までの、これは読書活動の推進計画でございますから、そういった運営の内容についてというのは、令和3年からオープンすれば、当然その問題も出てくるはずなのですけれども、そこには、一行もと言わないですけれども、全く詳しくは載っていないので、あえて伺わせていただけたらと思えます。

臼井図書館長 東松戸図書館と、西部図書館の関係もございしますが、こちらについては場所の明記のほうはこの計画の中にはしておりません。なぜなら、まだ東松戸図書館は一応、基本設計が終わり、実施設計の途中という状況でございますので、もう少し実現するには時間がかかるのではないかとこのところ、今回の計画に場所としては入れておりません。ただ、中高生に関する取り組みなど様々なこと、例えば障害者の部分とか、計画に盛り込んでおりますが、それは東松戸図書館を想定しております。複合施設であるため、おっしゃるとおり、デメリットもあるかもしれませんが、それを超えるメリットもあるかもしれません。そういうことで、子どもわかもの課と連携して、YA部門の充実ですとか、ビブリオバトルだとか、いろいろなイベントなども組んでいきたいという相談も進めておりますので、そう

いったことで、中高生の部分は充実させていくという内容が計画には盛り込まれております。オープンは、東松戸のほうは令和3年12月というのは目標として持っております。

神谷委員 同じ意味で、この中から、おはなし会のことがこれでカットされていると伺ったんですが、これはやっぱり子どもの居場所という観点からすれば、当然のことですけれども、この辺は相互乗り入れが考えられる重要な、東松戸も西部もどちらもですけれども、考えるべきところではないかと思ひまして、ご質問を申し上げました。ぜひ、計画をそのあたり綿密にさせていただくことが、オープンしてからとかく、縄張り争いとは申しませんが、ただ、多くの図書館と合築した児童館がトラブルに遭っていると、「児童館の子どもたち静かにしろ」とか、「図書館は静かなところなんだ、おまえらは何しに来たんだ」というようなめ事が幾つかの場所で起きております。松戸とは申しませんが。この問題はやっぱり今の図書館が今までどおりの事業を推進しようとするれば、当たり前ですけれども、もめます。しかし、上手にやっている千葉市の例で言えば、それは、声が聞こえようが、子どもたちのお話し声は逆に葉なのだと司書の方々はお考えになっている。そういう意味では、司書教育が実に重要だと思っております。だから、従来のいわゆる図書館なのだという発想では、こういうところの運営はうまくいかないということは、ぜひ肝に銘じてご計画をお願いしたいというふうに思います。

臼井図書館長 神谷委員おっしゃるとおり、声の問題はどこでもトラブルになっていることは事実だと思ひます。ただ、一方で最近の図書館はおしゃべりしてもいい図書館、飲み物を飲んでも良いな図書館、貸し出しはしない図書館など、いろいろなものが出てきておひまして、今回計画している東松戸図書館には、静寂室という部屋を作ります。小さな部屋なのですが、どうしても静かにしたい方もいらっしゃるのひで、静かなところで本を読みたい方はその静寂室、防音装置のついた部屋なのですが、そちらにお入りいただくというご用意をしてごひます。なので、入り口が児童分野になりますし、内階段で2階に上がると中高生の居場所になっています。多少声は。

神谷委員 多少ではなくて、相当と考へたほうがいいのかと思ひます。

臼井図書館長 なので、奥のほうと、その静寂室を大人のためにはご用意させていただきます。

神谷委員 ぜひそのあたりを慎重にお進めいただき、本当の意味で、この利用者の中で子どもたちの利用を増やそうということであれば、図書館をやっぱり好きになってもらうということが重要かと思ひまして、老婆心ながら意見を述べさせていただきました。

臼井図書館長 ありがとうございます。

最後に、こちらのチラシを配らせていただきました。今、神谷先生からもお話がありましたが、1月25日に、図書館で出会う・つながる・学びあう、図書館を生涯学習の中心にという、ちょっと大胆なテーマでございますが、図書館の思いということで、お許してください。聖徳大学の長江先生、有川先生にご協力いただきまして、前半は全体を長江先生のご講演、2部は東松戸の図書館の可能性について、みんなでワークショップで考えてみるという内容になっております。もしご都合がつくようでしたら、委員の皆様にもおいでいただけたらと思っておりますので、よろしく願いいたします。

山崎副委員長 では、図書館に関しては以上でよろしいですか。

どうもありがとうございました。

◎第二次松戸市社会教育計画に係るアンケート結果報告について、及び第二次松戸市社会教育計画に係るフォーラムの開催について

山崎副委員長 では、続けます。次の議題に移ります。

議事の2、第二次松戸市社会教育計画に係るアンケート結果の報告についてと、議事の3、第二次松戸市社会教育計画に係るフォーラムの開催について、この2つをまとめて取り扱いということです。アンケートについては、前回の会議でアンケート調査票が確定しました。そして、アンケートを実施し、集計したものが示されております。また、来年度実施するフォーラムについて、事務局の案をベースに、どのような形で開催するか、みんなで意見を出し合っていきたいと思っております。

では、社会教育課長から説明をお願いいたします。

井之浦社会教育課長 本日はお忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。よろしく願いいたします。

それでは、次第2、議事(2)第二次松戸市社会教育計画に係るアンケート結果の報告について、及び議事(3)第二次松戸市社会教育計画に係るフォーラムの開催について、順次ご説明をさせていただきます。

まず、議事(2)第二次松戸市社会教育計画に係るアンケートの結果報告についてですが、18歳以上の市民アンケート、社会教育関係団体のアンケート、18歳未満の市民のアンケートの順で概要をご説明してまいります。

まず最初に、18歳以上の市民アンケートについてご報告いたします。お手元配付の資料3、市民（18歳以上）アンケート結果をご覧ください。

調査の設計でございますが、調査対象は松戸市に居住する18歳以上の男女個人として、サンプルを3,000人といたしました。抽出方法は年代、地域、性別の3点による層別無作為抽出、調査の方法は郵送調査法といたしまして、調査期間は令和元年9月17日から10月4日までで実施しました。

続きまして、2 回収状況でございますが、サンプル数3,000人のところ有効回収数が1,235件でした。有効回収率は41.1%でございます。前回調査では52.8%でしたので、数字としてはちょっと少なくなったということで、ご了承いただきたいと思います。また、調査票返戻分の反映をしておりませんので、数字が多少変わる可能性もございます。

続きまして、3 集計表でございます。資料3の2ページ目以降に単純集計、クロス集計の年齢別、年代、性別、その他という順で添付してございます。集計表の上部に何の集計なのかを記載してございます。※の部分については、集計表を見ていただきながらご説明いたします。集計表にクロス集計の記載があるページを、どのページでも結構ですので、ご覧いただきたいと思います。クロス集計は、単純集計から10%以上高いものを濃い網かけ、かつ白抜き文字で示してございます。単純集計から10%以上低いものを薄い網かけ、かつ黒い太字で示してございます。

資料3の表紙にお戻りいただきたいと思います。4 備考についてでございますが、集計速報といたしまして、単純集計、クロス集計の結果のみ報告いたします。自由記述については現在入力作業中でございます。報告書の体裁を整える段階では単純集計はグラフでお示しいたします。

なお、自由記述につきましては、個人の意見ですので、今後、各所属の事業等の参考にするものとして、施策等の検討をする上では数字で計れる結果を重視したいと考えております。

資料4は、前回会議までに確定いたしました18歳以上の市民アンケート調査票でございます。

続きまして、社会教育関係団体アンケートについてご報告いたします。お手元の資料5、社会教育関係団体アンケート結果をご覧ください。

1 調査設計でございますが、調査対象は社会教育関係団体のうち文化系団体全団体とし、令和元年8月20日の時点で登録のあった490団体全団体に対し実施いたしました。調査方法、

調査期間は18歳以上の市民アンケートと同様でございます。

続きまして、2 回収状況でございます。全490団体のところ、有効回収数は410件でございます。有効回収率は83.6%となりました。前回の調査は80.1%でした。なお、こちらも18歳以上の市民アンケートと同様に、調査票返戻分を反映していないため、数字が変わる可能性もございますので、ご了承ください。

続きまして、3 集計表でございます。単純集計、クロス集計の活動分野、活動年数、活動頻度、その他という順を添付しております。※の部分は18歳以上の市民アンケート調査票でご説明したものと同様でございます。

続きまして、4の備考ですが、こちらも18歳以上の市民アンケート調査票でご説明したものと同様でございます。

資料6は、前回会議までに確定した社会教育関係団体用のアンケート調査票でございます。

続きまして、18歳未満の市民アンケートについてご報告いたします。お手元に資料7をご用意いただきたいと思っております。市民（13歳～17歳）のアンケート結果でございます。

1 調査対象ですが、13歳から17歳までの松戸市民といたしました。

続きまして、2 回収結果でございますが、156件の回答を得ました。

続きまして、3 実施日時及び場所、回収件数でございますが、高校1クラス、中学校2クラスと、市内公共施設にて実施いたしました。公共施設につきましては、社会教育課職員2名体制で中高生にお声かけをさせていただき、その場で記入をしてもらい、回収いたしました。中高生の居場所事業にも訪問しまして、お声をかけさせていただいた相手は、皆さん快くご協力をいただくことができ、コミュニケーションを取りながらアンケートに答えていただくことができました。訪問した施設によっては中高生に会うことができなかった場所もございますが、その事実もまた今後の施策を考える上での材料となるものと考えております。

続きまして、4 実施方法ですが、先ほど申し上げたとおりでございます。

続きまして、5 備考でございます。本調査は、たまたまそこに居合わせた市民に協力をしてもらったというものですので、母集団が無作為抽出したということとは言えず、統計調査としては扱えるものではないという認識をしてございます。したがって、得られた結果はサンプル調査のように、その世代を代表する結果とまでは言えませんが、市民一人一人の声を積み上げたということで、そのことを踏まえた上で結果を分析してまいりたいと考えております。

次のページからは調査結果ということで、最初に単純集計結果、その後に自由記述となっ

ております。

資料8は、前回会議でご意見をいただき、他の所属の意見も踏まえた上で確定した市民（13歳～17歳）のアンケート調査票でございます。

ここまで、資料3から8まででございますが、3種類のアンケート結果と調査票でございます。資料9、10は補足資料でございます。まず資料9は、現社会教育計画に関するアンケート結果、経年変化の確認のためご用意させていただいたものでございます。こちらは18歳以上の市民と社会教育関係団体アンケートに関連するものです。前回調査と今回調査で共通する設問を一覧にしております。2枚目以降に市民、団体アンケート、それぞれ単純集計を添付しております。最終的にアンケート結果報告書の形になる際には、経年変化を迫る設問にはクロス集計を加えて、前回調査も一緒に掲載したいと考えております。

続きまして、資料10、松戸市子ども・子育て支援に関するアンケート調査報告書抜粋をごらんください。こちらは18歳未満の市民アンケートに関するものです。子ども部が昨年度実施したアンケート結果のうち、調査概要と関連する集計結果を抜粋いたしましたものでございます。若い世代を対象とした施策等を考える上で、子ども部の調査結果も参考にしたいと考えております。

これまで、資料3から10までのご説明をしまいましたが、こちらの資料を先月の庁内ワーキング会議でワーキングチームに渡しております。現在、各所属でアンケート結果の分析をしているところでございますので、次回、2月の社会教育委員会会議では、その分析し集約をしたものをお示ししたいと考えております。その際、委員の皆様からもアンケート結果に対するご意見をいただきたいと思いますと考えております。

以上までが、議事（2）第二次松戸市社会教育計画に係るアンケート結果の報告の説明でございます。

続きまして、議事（3）第二次松戸市社会教育計画に係るフォーラムの開催についてのご説明をさせていただきます。

お手元に資料11、第二次松戸市社会教育計画策定に係るフォーラムについてをご用意いただきたいと思います。

本日の会議の目的ですが、来年度5月に実施いたしますフォーラムの企画概要案について、委員の皆様からご意見をいただきたいと思いますと考えております。企画の概要については、後ほど資料12でご説明いたします。

フォーラムでは、委員の皆様を中心に進めていただきたく、企画概要を作成してお

りますが、本日、特に次の3点についてご意見をいただきたいと考えております。まず1つ目、全体の流れが適切かどうか、2つ目、役割分担は適切かどうか、3つ目、分科会の構成が適切かどうかの3点でございます。このほか、フォーラム全般についてお気づきの点がございましたら、どうぞご意見をいただけますよう、よろしく願いいたします。今後につきましては、資料12の説明後、最後にご説明をさせていただきます。

それでは、お手元の資料12、第二次松戸市社会教育計画策定に係るフォーラム企画概要(案)をご覧ください。

目的ですが、第二次松戸市社会教育計画を作成するに当たり、市民、社会教育関係団体等と直接対話する場を設けることで、多様な方から意見を計画に取り入れることを目的として、フォーラムを実施いたします。

続きまして、目標でございます。資料12の一番後ろ、5ページでございます5の「(参考)第二次松戸市社会教育計画体系案」を併せてご覧いただきたいと思っております。来年度計画を策定する際には、この体系図のように、基本理念、基本目標、施策、施策の柱、事業、またそれぞれの評価という形を想定してございます。

フォーラムでは、施策のベースとなるものとして特に重要なニーズ、課題は何かを抽出できたらと考えております。基本理念は現在の計画のままに、基本目標も大きくは変えず、施策はアンケート結果、フォーラムの結果、過去の評価、ニーズは低くとも対応すべき課題等を鑑み、見直していきたいと考えております。また、施策にひもづく事業の設定の気づきも得られればと考えております。

続きまして、開催概要でございます。名称を「(仮称)想像しよう・創造しよう 松戸の未来」、副題として「まつど社会教育フォーラム」としております。

(2) 日時は令和2年5月23日土曜日、午後1時から3時45分まで、場所は松戸市民会館でございます。日付と場所につきましては、こちらで確定とさせていただきたいと思っております。

次に、参加者は社会教育委員の皆様が10名、計画策定ワーキングチームのメンバーである社会教育部門各所属の担当者が8名、社会教育関係団体から15名程度、子どもの代表として15名程度、一般市民を15名程度で、主催者といたしまして教育長、事務局である社会教育課、計70名程度を想定してございます。

配布物は、レジュメ、アンケート報告書概要版、フォーラム参加者アンケートの3点を想定しております。

続きまして、当日のスケジュールでございますが、午前中に委員の皆様と打ち合わせ、リハーサルを行い、昼食休憩を挟みまして、1時に開会、その後、広い会議室で全体会を行い、その後、4つの会場に分かれて分科会を実施し、最後にまた最初の会場に集まり、全体でまとめをしたいという流れでございます。15時45分の閉会を予定してございます。全体会、分科会、全体のまとめについては、後ほどご説明いたします。

会場レイアウトでございます。全体会、全体まとめ会の際は、参加者は椅子だけの状態だと考えております。分科会は、何人かになって一つのグループとすることを想定しております。

内容及び役割分担についてご説明いたします。全体会、分科会、全体まとめ会、それぞれのタイムスケジュール、所要時間、内容、役割分担を表にまとめてございます。

全体会でございますが、最初の5分間で開会宣言、教育長挨拶、本日の流れの説明を行います。司会でございますが、山崎副委員長にお願いできればと考えております。次の10分で、アンケート結果の報告ということで、福留委員長にお願いできればと考えてございます。資料の作成やパソコンの操作等はサポートを事務局で行います。この後、流れの説明は山崎副委員長にお願いしたいと考えてございます。

続きまして、(2)の分科会でございます。まず、役割分担をご覧いただきたいと思えます。分科会は基本目標と連動しておりまして、委員長、副委員長以外の8名の委員の皆様2名ずつ、ご担当いただければと考えております。第1分科会は基本目標1、学習機会の提供について取り扱いますが、大橋委員と小熊委員にお願いしたいと考えております。第2分科会は基本目標2、情報提供・相談について取り扱います。三島委員と竹中委員にお願いできればと考えております。第3分科会は基本目標3、学習成果の活用について取り扱います。神谷委員と森委員にお願いできればと考えております。第4分科会は基本目標4、地域と学校と家庭の連携について取り扱います。齋藤委員と山口委員にお願いできればと考えております。各分科会で、委員1名はファシリテーター、もう1名は分科会内の司会兼ファシリテーターの補助という形でご担当いただき、委員長と副委員長は各分科会の様子を見回っていただきたいと考えております。

分科会の流れをご説明させていただきます。最初の5分でファシリテーターからワークの進め方を説明していただきたいと思えます。資料や進行台本は事務局のほうでご用意させていただきます。次の20分で、アイスブレイクということで、その場にいるお一人ずつ自己紹介と、その分科会が取り扱う基本目標に関連するその方の考えを1分程度でお話しいただき

たいと考えております。このとき、ワーキングチームのメンバーに、各人の話の中から後のワークに生かせそうなキーワードをメモしておいていただけたらと思っております。次の10分で、ファシリテーターからその分科会で担当する基本目標に係るアンケート結果の説明をいただきまして、レジュメは事務局のほうで用意いたしたいと考えております。このとき、自己紹介で出たキーワードにも触れつつ、このワークの方向性を示していただき、分科会について何をするのか共通認識を持ってもらえればと思っております。

10分間の休憩を挟みまして、次の10分で、1つ目の問いかけとして、あなたが気になったアンケート結果はということで、まずは個人で付箋に記載していただきたいと思っております。次の10分で、近くにいる二、三人の小さなグループで、書き出した内容の共有をしていただき、特に大事だと感じたものをホワイトボードか模造紙に張るような形で進めていきたいと考えております。ファシリテーターには適宜、会場内を見ていただき、余り活発に意見交換がされていないグループがあれば、そこをサポートしていただきたいと思っております。この時点である程度、意見を集約したいと考えておりますので、出たものを全部張るようなことはないように、ファシリテーターの方のほうで伝えていただければと考えています。また、同じ意見がほかのグループから出ていた場合は、重ねて張るようにしていきたいと考えております。次の15分で全体共有をお願いいたしまして、ファシリテーターは付箋を読み上げ、深掘りをしていていただきたいと思っております。ただ、余り時間がございませんので、深掘りをするのは全ての意見でなく、重要だと思うところの意見で結構でございます。

次の10分で、次の問いかけに移ります。問いかけの2は、そのニーズ・課題に対してどのような取り組みが必要と考えますかということでございます。まず、個人ワークを行いまし、問いかけの1で出された意見にひもづけて、必要だと思う取り組みを色の違う付箋に書き出し、ホワイトボードもしくは模造紙の上に張っていただくような形、このとき発想を狭めないように、取り組みの主体は行政に限定せず、アイデアを考えるときには、行政がということに限定するものではなく、自由な意見を聴取してもらいたいと考えております。この時点で分科会の残り時間を計算していただき、余り時間がないようであれば、全体共有よりも個人ワークの時間確保を優先していただきたいと思っております。最後の5分で、全体共有ということで、アイデアを読み上げて、最初の会場に戻るよう促していただきたいと思っております。

続きまして、(3)全体のまとめ会でございます。まず、役割分担から説明させていただきます。進行は山崎副委員長、各分科会のファシリテーターに発表をしていただき、総括として福留委員長と山崎副委員長からコメントをいただきたいと考えております。内容といた

しまして、まず山崎副委員長から全体まとめ会の流れの説明をお願いいたします。その後、第1分科会から順に、分科会で出た意見をファシリテーターから発表いただきまして、発表はおおむね5分程度でお願いしたいと考えております。次の15分で、総括ということで、各分科会からの発表を受けて、委員長、副委員長のほうから総括コメントをいただきまして、コメントには今回のフォーラムで得られた意見が今後の計画策定にどのように生きてくるかについて触れていただけたら幸いです。

フォーラムの企画概要の説明は以上でございます。

最後になりますが、資料11、第二次松戸市社会教育計画策定に係るフォーラムについてを
ごらんください。2の今後についてご説明いたします。

(1)のスケジュールでございます。フォーラムに関わる部分を時系列でお示しして
ございます。2月に第5回社会教育委員会議を開催いたしますが、このとき委員の皆様
にアンケートの分析結果を提示いたしたいと考えてございます。アンケート結果に
関するご意見をいただきたいと思っております。フォーラムの準備ということで、
次回会議でお示しするものになります。今回いただくご意見とともに、より
具体化した計画案を次回はお示ししたいと考えてございます。

来年度4月に第1回社会教育委員会議を開催し、フォーラムの準備を予定して
おります。5月23日土曜日にフォーラムを開催し、6月以降、フォーラムや
アンケートで得られた結果をもとに計画策定を進めていくという流れで
考えております。

長くなりましたが、説明は以上でございます。よろしく
お願いいたします。

山崎副委員長 ありがとうございます。

ただいま社会教育課長から丁寧な説明がありましたが、冒頭に申し上げました
ように、アンケートについては報告ということで、質問等がございましたら
ご発言ください。また、フォーラムについては意見聴取ということでござ
いますので、皆さんのほうから自由な意見のほうをご提示いた
きたいというふうに思います。特にどちらが先ということも
ありませんので、自由にご意見のほうありましたらご発言
ください。どうぞ。

大橋委員 ちょっと確認です。アンケート結果というのはこれ
ですね。これをもとにしてフォーラムで話し合うということ
なのですね。

山崎副委員長 はい。

齋藤委員 アンケートのほうですけれども、本当にお疲れ
さまでした。非常に膨大な情報が得られたのではないかと
思います。余談になりますけれども、13歳から17歳のほう
で、11月11

日、私もここに出張に行っていて、アンケートをされている担当の方とお会いすることができて、頑張っているなどと思って見ていたのですけれども、お伺いしたいのは、今度、2月に分析結果を示されるということなんですけれども、膨大なこのアンケートの内容をどんな形で分析していくのかという、何か方向性とかについてちょっと、今わかっている時点でお話しいただければありがたいです。

以上です。

井之浦社会教育課長 ありがとうございます。このアンケート結果、これを集計して分析するに当たっては、コンサルにお願いする予定でございます。ですので、それでコンサルのほうで分析していただいた結果と、それから、こちらで積み上げた結果というものを並べて、その結果を次回にご提示させていただいて、その分析結果から、どのような形でフォーラムを進めていくかということと一緒に考えていただきたいと思っております。

山崎副委員長 よろしいですか。

齋藤委員 はい。

山崎副委員長 ほかに、ご意見なりご質問ありますか。

神谷委員 こちらのフォーラム企画のほうのお話ですが、分科会の進め方がやたら細切れになった、あたかも学校の先生が小学校で何か発表するときのやり方ですね。これでは、意見は出てこないですね。我々、恐らくここにいらっしゃる小熊委員も大橋委員も三島委員も、僕が存じ上げている限りでは、こういった形ではなく十分にこの成果を、言ってみれば、この目標に沿った答えを出すことが十分できるはずなのです。おのおのやり方、みんな違うと思います。恐らく皆さんがファシリテーターとして活動されているわけですから。ですから、このとおりやらなければいけないということなのか、それであればほかの人に頼んでよという感じです。それよりは、ファシリテーターを信じて、いい形の答えが出ればいいよということなのか、どちらかお教えください。

山崎副委員長 どうぞ。

井之浦社会教育課長 もうおっしゃるとおりです。今日この段階で、これはたたきとしてお示ししているのですが、そこでいきなり皆さんの好きなようにやってくださいでは、ちょっと説明にならないので、こういう形で説明させていただきましたが、神谷先生がおっしゃるように、私に任せてくださいというのであれば、こちらとしても心強い限りでございまして、ぜひひそひそにさせていただけたらと思います。

神谷委員 いや、私だけでなく、おのおの先生方、本当にいろいろな方、ファシリテーター

を務められている方だから、それは。

井之浦社会教育課長 ここでそう言っていただけたら、こちらとしてもうれしい限りでございますので、ぜひぜひそのようにしていただけたらと思います。

神谷委員 この時間の中で明確な答えが出せれば。

山崎副委員長 どうですか、役割分担として、私と福留委員長以外は皆さん、各分科会のほうをご担当されるわけですが、それぞれご担当されるお二人のほうで、事前に協議をする時間があるようでしたら、どういうふうに進めようかというのを打ち合わせていただくなり何なりしてもいいのではないかと個人的には思うのですけれども、それで、今日の事務局が出していただきました案も多少踏まえつつ、あとは自由にやっていただくということで大丈夫ですか。

三島委員 日程調整でもし答えていたら本当に申しわけないのですけれども、私、5月23日は都合が悪いかもしれないです。

山崎副委員長 ほかに、この日全然だめだという方いらっしゃるようでしたら。

三島委員 ちょうど学会で。

山崎副委員長 三島委員のところは別途調整ということで、あとの方は万障お繰り合わせの上、当日ご参集くださいということで、それぞれ役割の分担は、既に事務局のほうから、第1分科会、第2分科会、第3分科会、第4分科会というように各委員のほうにもう振られておりますけれども、そのご担当される分科会も含めて、今のところこの感じで大丈夫ですか、皆さんのほうは。何かこっちのほうがいいというのがあれば。

齋藤委員 こっちのほうがいいではなくて、先ほどの評価の部分とも関係するのですけれども、それぞれの分科会のテーマが学習機会とか、私は地域・家庭・学校連携でいいのですけれども、この分科会、この4つのこれでいいのかどうかというのは、もまないといけないかと思うのですけれども、これが施策の柱に関係してくるものなのか、どうなのかというのもありますよね。柱になってくると思うけれども、まあ自分は学校関係者なので、地域・家庭・学校連携でいいのですけれども、分科会のこのテーマが、果たしてこれで全部その施策を網羅できるようになっているのかというのは、どうなのですか。例えば、成果応用とかで網羅しているのでしょうか。施策の、多分、次のページの柱あたりに関係してくると思うのですけれども、テーマがいかげなものであるのかというのを分析というか、少しはアンケート結果か何か見ながら、その辺が出てくるのかというように自分は感じているのですけれども、その辺についてはどうなのでしょう。これで行くというなら、今おっしゃられたように、この分科会

担当でいいですよということになると思うのですが、それについては。質問の意図わかりますでしょうか。

(「わかりますよ」の声あり)

山崎副委員長 よろしく申し上げます。

事務局 事務局から回答させていただきます。基本理念と基本目標の部分はこれまでの、今の現計画と基本的には変えない、文言の多少の調整は、基本理念は変えず、基本目標1、2、3、4は多少、例えば基本目標4ですと、連携を協働にするとか、そういう調整が入るかもしれませんが、基本的には現計画で提言をいただいたもので基本目標を設定していますので、そこから端を発して、4つの基本目標の達成度を計るためのアンケートをまず、取っておりますので、基本目標を達成するための施策を目的、目標として、その下に施策の柱、事業とどんどん細分化、具体化していくことになるのですけれども、その発想のもとには基本目標の達成度というところになりますので、分科会も基本目標1、2、3、4に合わせたい、施策とかも、そこから発想して、現計画からは変える、これからどうするかというところでの考えというところでアンケート、フォーラムを中心にほかの、これまでのものですとか、必要課題ですとか、あると思いますが、もろもろ鑑みて、策定をしていきたいと考えております。

神谷委員 もしそうだとすると、この予定される参加者、これが、そのいわゆる柱をつくるのに向いているメンバー、要するに第1、第2、第3、第4の分科会おのおの、例えば、こういうのだったら1だとか、この子はこうだというようにしないと、アランダムに割り振りをされるのでは非常にやりづらいと思います。ですから、参加者のいわゆる興味分野、そういうところをあらかじめ勘案してグルーピングしていただくことが肝心だと思うのだけれども、ぜひご検討ください。

事務局 はい、その方向で進めてまいります。

小熊委員 今の齋藤委員のご質問と重なるというか、ちょっと視点的な話なのですけれども、網羅的にやりたいということで、4つの基本目標に対して、この理念に対してどう、それぞれに対してちゃんと議論を深めたいということであれば、今のこの分科会の割り方で恐らくいいと思うのですが、一方で、重要なニーズとか課題に対しての気づきを得たいということであれば、重要なニーズ、課題を、コンサルとかに投げて、出てきたのを、この委員会議の中で抽出して、たとえばこの4つを重点課題として取り上げて、それに対して意見を出してもらいましょうというような流れというものも、やりようとしてはあると思うのです。なので、今回のフォーラムをどうしたいかということと今の話は結びついていくのですけれども、ち

よっとそこは事務局の意見と、ほかの委員の意見もちよっとお伺いしたいというところです。私は、重要課題に合わせてやったほうが実のある意見は出るのではないかという気はしますが、一方で、フォーラムとしてやっぱり網羅的に情報を取りたいという意図もわからなくもないので、そのあたりもディスカッションしたほうが良いと思います。

山崎副委員長 ほかの委員の方たち、どうですか。

大橋委員 今までのお話とも重複するんですけども、要は5ページの網かけのところをフォーラムでやるという形になっているわけですね。ですから、その場合、今回、アンケート調査をやって、そして、そこである程度ニーズはわかっているわけなので、このフォーラムでは、そのニーズをフォローしていくというか、その脇を固めていくような、いわゆる数量的なものはアンケート調査でやって、質的なものをこのフォーラムでやるのか、それとも、この目標を、もう基本的な基本目標の4の下に点々なんか要らないので、逆にもう4つは4つということをはっきりさせないと、その理念と目標はもうはっきりして、その目標に対してここの施策として、どういうものを皆さんと話し合っ出て出すのかというのを、これは先ほども小熊委員からも出ていますけれども、結局フォーラムの目的をはっきりさせておかないと、何のためのフォーラムかというのを明確にしないと。

だから、目標に関して、それについて何か、または理念、それについて話し合っ、もう少し具体的にしていくのか、それとも施策のほうか、その辺をはっきりしておかないと。ですから、この網かけということになれば、もう基本的には具体的な施策について皆さんと話し合っっていくということになるのだらうと思うので、それで、アンケート調査で出てきたもの以外、もしくはアンケート調査で出てきた結果について、もう少し具体的な何か意見を聞いていくとか、その辺のところはどうなのかというのをもう少しはっきりしておかないと。ですから、もうここは基本目標4つまで、4つのところ、理念と、これ全部もう書いてしまっていていいと思います。基本理念は何で、それで基本目標は4項目で、それで具体的な施策についてフォーラムでと、何かそのようにはっきりさせていったほうが。その辺がやっぱり計画を立てるとき、いろいろな人が入っ来て話し合っ、どうしてもいろいろな方向に行ってしまいがちなので、何を話すのかというのだけは明確にしておくというのが。

神谷委員 だから、それを想定しての、この4つの柱なのではないですか。

大橋委員 そう理解できますね。

神谷委員 だから、そういうふうにし理解ができなかったから、これは動かしようがないのだと思っっていたのだけれども、どっちなの、それは。

事務局 基本目標を変えないというのは、ちゃんとお示ししたいなど。

井之浦社会教育課長 委員がおっしゃるように、この社会教育計画の中で松戸市が今後、社会教育をどうしていきたいかという理念は、ここの部分は行政がきちんとこういう理念を持ってやるというところを示さないと、ここを市民からのいろいろな意見を聞くというのは、全然また話が変わってきてしまうので、小熊委員とかがおっしゃるように、ここの部分というのはここの理念、その理念を叶えるための目標として設定するところまでは行政がきちんと示して、それを具体的にやっていくためには、市民ニーズもきちんと捉えた中で実施していくためには、どういった事業展開がいいのか、そこの中で、またどういう事業が柱となって、細かい事業に分かれていくのかというところをフォーラムの中でやっていただけたらなというふうに私は思っております。

山崎副委員長 どうですか。

竹中委員 今、課長がお話ししてくれたので、少し自分としては、ああ、そんなふうに進めていくのだなと、これだけだとちょっと見えなかったのですが、どういうふうにして進めたらいいのかというのがちょっとわからなかったのですが、今お話しいただいたので、この次のときは、それを出していただいて、そこでもんでいかないと、ちょっとこれだともみようがないかなという感じ。

井之浦社会教育課長 おっしゃるとおりです。

山崎副委員長 どうですか、ほかの委員。

山口委員 山口です。今のお話を踏まえた上で、計画の段階、今後の予定、スケジュールで行くと、余り時間も少なくなってくるという中で、目標と同時に、各フォーラムの中で、あなたが気になったアンケート結果は、という聞き方を各分科会で、あるのですけれども、あなたが気になったアンケート結果はというふうになると、このアンケート結果の見せ方ってすごく重要だと思っていて、それを次回、こういう結果ですとお示しいただいた状況で、その次に当日に、どういうふうに出てくるのかというのがちょっと確認するのが遅れてくるのかということもあって、そこら辺が、アンケートって数字なので、すごく公正な感じもしますけれども、引っ張り方でどうにでもなるというか、そこが多分、数字の怖いところだろうと思うのですけれども、なので、次回、結果だけだと、ちょっと方向がばらばらになってしまうというか、結果をもとに、分科会であなたが気になったアンケート結果はと聞くと、先ほど先生たちがおっしゃったように、ばらばらの方向に行ってしまうような気がするので、ある程度、2月の次の段階のときには、フォーラムのそういう、着地点じゃないですけど

も、引っ張り方とか見せ方がすごく大切だなというのは感じました。

井之浦社会教育課長 ありがとうございます。おっしゃるとおりだと思います。先ほど神谷委員から言われたことが、まさにそこなのですけれども、ここで今、気になったアンケートはというようなことでここに言っているのは、当初の、要するにフォーラムの進め方を、私が、要するに社会教育課としてはこういう形でやりますよということを、このたたき案では示さない、ただ、そこで、こんなやり方ではだめですよと今、だめ出しがあって、それぞれがそれぞれのやり方というのを持っていますのでというふうな話の中で、要するに、我々が欲しいのは、最終的にどういった有効な施策が打てるのかという結果でありまして、そのためにどうするのかというのを、具体的なその進め方の例として、ここでは挙げてございますので、先ほど神谷委員がおっしゃったように、その抽出、何をそのフォーラムで社会教育課は求めているのだというところを、きちんとこの後、アンケートの結果とかも踏まえた中で示しをさせていただいて、そこを引っ張り出すことを委員の皆様にご覧いただければと思っております。

ですので、アンケートの結果が、これからコンサルが入って集計して、分析結果が出まして、それに伴って、母数はないけれども、子どもの生の声としてとった結果もございますので、そういったものもきちんとした表にした中で、こういった結果で、我々としてはこういったものを最終的に、そこからフォーラムで皆様の各分科会から引き出したいですと、ですからその意見を引き出してくださいというものを示しさせていただいて、あとはそれぞれのやり方で、その部分を引き出していただけたらというふうに思っておりますので。

今回のこれは、先ほど言ったように、ご説明するに当たってはこんな感じだというようなイメージをうちのほうで出さないと、反対意見も出てこない、かといって丸投げで、どうしましょうかというのも変な話なので、こういった形で言いましたけれども、それこそ神谷委員のように、一発でだめ出しされましたので、我々といたしましても、ここにいらっしゃる社会教育の専門家の面々が、自分たちのやり方がちゃんとあるからと言っていただけるのであれば、もうそれ以上、心強いものはありませんし、あとは、何が欲しいのと言うところを、社会教育課のほうでアンケートの内容とかも見ながら、皆様にお示しさせていただきますので、それで何とかやっていただきたい。

山口委員 次の、多分その2月に出てくるところがすごく重要なのではないかと思います。

井之浦社会教育課長 おっしゃるとおりだと思います。

神谷委員 第一次の社会教育計画策定のときに、私はグループに加わったものですから、それ

を実は一番心配しておりました。なぜかと申しますと、そのときは丸投げ、はっきり言うと、社会教育の計画が松戸市はありませんと、そのときの社会教育課長さんがおっしゃって、それをぜひ聖徳大学の生涯学習研究所でつくってほしいと言われて、その議論を市民の方々お集まりいただきながら、やったのです。けれども、それは非常にやりにくかった。なぜかと言いますと、行政の施策が出ていない中で、言ってみれば、こういう方向で、ではなく、「もうとにかく市民の意見をみんな聞いてくれ」ですから、しっちゃかめっちゃかなのです。それを、逆に言うと、取りまとめることは非常に各委員は苦勞したというのがあります。効率的ではなかったのです。

ですから、そういう意味では、この計画策定が今回のように明確な、要するに、意図をもって示していただけると、非常にいいかなと。やり方は任せていただくにしても、こういうものが欲しいからこうやれという形であれば、今、山口委員が言われたように、非常にスムーズに進めることが可能なのではないかと思います。

山崎副委員長 森委員。

森委員 森でございます。今、山口委員、神谷委員、それから課長のお話を聞いて、私の中でも消化不良というのが解消しまして、私はこの資料をいただいて、7番、8番、それから10番、とてもおもしろかったです。これを見まして、確かに数字では出ないもので、本当に対面調査になりましたから、アンケートというよりはサンプル調査なのですけれども、一つ一つ子どもの意見が出ていて、恐らく、子どもたちに直接対面してお話をしたというか、調査をなさった社会教育課の職員の皆様方も、これはおもしろかったというか、やりがいのあった結果だったのではないかと思います。この一つ一つの中からいろいろな子どもたちの考えが出てきますし、私はやはり今、子どもにとって一番大切なことは、子どもの意見表明権というものが今後の社会をつくっていく上で一番大切だと思っております。これはまさに、もう子どもが本当に自分の意見をそのまま表明した結果だと思えます。

それから、あともう一つ、10番なのですけれども、10番の子ども部がつくったアンケートも結構、突っ込みどころがあって、例えば、18歳になったら選挙権が与えられ投票できるようになります、あなたはどうしますかと。絶対行かないという人もいて、どうしてか聞きたいわけですよね。今後の社会を考える上で、どうしてと聞きたいものが大人としてもあるし、そういうものも踏まえながら、恐らく2月にそのようなものが出てくるのであろうかと。

それで、このフォーラムのタイムスケジュールを見たときに、本当に細かいスケジュール管理だなと思いました、私も。これだったら楽かなとも思ったのですが、ただ、結局こうい

うふうに細分化されたプランを立てたというのは、多分その細分化された中に、社会教育課として、行政としての今後の、今回のフォーラム、それから、計画に当たっての行政としての立場というものがあるからであろうと、だから、その運用は、私たちはそのときにアトランダムになると思うんですけれども、そういうものが行政のそういう意識というものを踏まえながら向かいたいと思いますので、2月のほうのアンケートはどうぞよろしく願いいたします。

井之浦社会教育課長 ありがとうございます。

大橋委員 5月のときのフォーラムはものすごく限られた時間で、3時間とかそのぐらいしかない。その間にこれだけの量のものを、幾ら任せて、2月に出てきたとしても、自由回答、自由記述のところまで、どこまでを今回、話をするかというのは、かなり絞り込まないといけないと思います。ですから、まずは2月のときにある程度絞り込んで、さらにもう少し絞り込んで、4つのこの分科会の中である程度、行政のほうでも、こういったところをという話を持っていかないと、もう幾らでも広がっていくので、いろいろな人がこれは入ってくるわけだから、本当に広がってくるので、ですから、やっぱり何を話すかというものをかなり絞り込んでいかないと。それと、今の自由記述をどう生かしていくかと、これも話をし出すともものすごく時間がかかる話なので、ですから、これも事前にもうかなり、コンサルのほうにお願いして絞り込んで、そこをある程度まとめてもらうような形で、それをしていただいて、2月のときは、さらにそれを今度、絞り込むという作業をして、それで、当日はもう、この分科会はこういうものを主にという形にしていかないと、そんなふうに思っています。つまり、ニーズをどんどん絞り込んでいくと、それを当日、みんなで話し合うということをししないと、一日の数時間で、僕らだって大体半年かかるので、3時間ぐらい、これは大変なことで。そういうことで、その辺の絞り込みをよろしく願いします。

井之浦社会教育課長 かしこまりました。

大橋委員 それと、ついでに、分析のところには地域というのをに入れてほしいのです、地域別、これが入っていなかった。これをなぜ入れないのか。

井之浦社会教育課長 ごめんなさい、もし入っていなかったとしたら、アンケートは地域性でもとっていますので。

事務局 すみません、層別無作為抽出は地域ごとでやっているのですけれども、設問からは抜かしてしまっているのです、地域性をこのアンケートで計るのはいけません。

大橋委員 クロスで地域で、だって、どこの。

事務局 設問でしか。

大橋委員 設問じゃなくて属性のところ、クロスというのは必ず地域というのは出てくるでしょう。年齢云々で、地域というのは。

事務局 設問から無くしているので、地域ではクロスかけられないです。

大橋委員 でも、それは致命的だよ。やっぱり地域的な差というのが出てくるわけなので、我々も住民意識調査は必ず地域というものは、当然出てくる属性なので、地域によってその特性というのが出てくるわけだから、例えば、いろいろな社会教育施設に関しても、住民の意識に関しても、やっぱりそういう地域的な偏在というのは出てくるわけなので、だからここでは年齢別、性別というのがあるのだけれども、それより大事なのは地域性というやつです。だから、これは地域を取っていなかったというのは、僕は何か言ったような気がするんだけど、地域というのは。ですから、これは非常に、地域別というのを取っていないというのは、これはもう社会調査としては落第だと僕らは認識するんだけど。当然、僕らも地域福祉計画を立てたときは、地域別は物すごくやっぱり特徴が出たから、だからやっぱり地域性というのは取るのが当然なんだけれども、今回取れないというのは、もうしようがないんだけど、その辺を、例えば自由回答とか何か、そういったところでフォローするしかないかもしれないのだけれども、今後、とにかくそれは絶対、地域というのは属性は取らないといけないところなので、回収したときでもいいし、何かそのときは、居住地に丸をつけてもらうとか、それは今後やってください。今回はちょっと無理だから、もうそれはしようがないとして。

三島委員 三島です。同じ話の繰り返しになってしまうとは思うのですがけれども、やはりちょっと当日のやりやすさと、あと時間、45分くらいということも考えると、各分科会で取り上げられるアンケート結果は一つ二つくらいにならざるを得ない、そこに対してどんな解決案があるかというのは、多分いろいろ出てくるということを考えると、そんなにたくさんはやれなくなってしまうのかなと思います。それを絞り込む、どれを選ぶのがよいのかの原案は事務局のほうでつくっていただくことになるのかなとは思うのですが、その絞り込んだプロセスはこちらの委員会のほうでも共有していただいたほうが、多分、そっちではなくてこっちのほうがいいのではないかと意見が言える機会もあったほうがよいのと思いました。

山崎副委員長 小熊委員。

小熊委員 当日のことをイメージをしていて、今、この問いかけの例に縛られて発想しているかもしれないので、そこは見直されるということで、またちょっと別なのですがけれども、参

加する側からしてみると、こういう課題がありますと言ったときに、いや、そうではなくて、自分はこのアンケートのこの部分が課題だと思うという参加者は絶対いるだろうと思うわけです。なので、我々が統計的に取ったもの、もしくは数量的に評価できる中から、課題だと思っていることについてアイデアないしはニーズを掘り起こしたいということであれば、気になったアンケート結果というところはなかなか難しいとっていて、逆に、我々はこのように課題だと思っているけれども、漏れているニーズを来た人からきちんと聞きたい、そういうことを意見として市民から取り上げたいということであれば、これは有効だと思うのですけれども、そのあたりを、フォーラムとして何を問いたいのかというのを、明確さというか、視点として、既に我々が統計的にとったものから出た課題が必要十分だとして、そこについて意見を寄せてもらいたいのか、それとも、そこに関して漏れがあるかもしれないから、パブリックコメント的な意味合いも含めて、来た人からその意見を引き出したい、漏れている課題を吸い上げたいということであれば、それはそれだと思うのです。なので、そのどっち側に振るかということで議論の方向性が全然違うかなと思うので、そこを整理の視点として、お願いしたいと思います。

山崎副委員長 今、2つ出ていますけれども、両方主というのは難しいと思うので、メインはこうだけでも、ただし、それだけで終わらずに、今ご指摘のあったような意見をどのタイミングでどういうふうに最後まで間に拾い上げるかというのは、ちょっと時間的なものも含めて、工夫する必要があると思いますが、メインについては、先ほどからいろいろな、三島委員も含めて、出てきていますように、ある程度縛らざるを得ないと私も思います。ただ、最終的にこれとこれというふうにぽんと出されるよりは、幾つかちょっと候補を出していただいて、それぞれ担当される分科会が皆さんありますので、それこそ席を隣同士にさせていただいて、しばらく担当されるお二人の中でディスカッションしてもらって、プラスアルファがあるのか、それとも、これは要らないからこれだけに集中しようとかいうのは、ご担当されるお二人のほうで協議していただく時間も、本番の前にひとつとっていただくほうが、多分、当日いきなり来て、打ち合わせをちょっと午前中やってというのは、なかなか難しいかと思うので、その辺も少しお時間いただけるように、2月の会議のときにはちょっとスケジュールリングしていただくのもいいかなというふうに。今のところちょっと、直接分科会を担当しない私が申し上げるのは何ですが、どうですか、皆さんそれぞれ、各分科会をご担当されるに当たって、当日までのスケジュールはここに書いてありますけれども、それでぶっつけ本番で、2月の会議である程度もむにしても。

小熊委員 4月も出てみないとわからないというのは、正直。

山崎副委員長 4月は確定はしていないとちらっと聞いているのですが。

神谷委員 4月ぐらいにやらないの。

小熊委員 4月のフォーラム準備というところで。

神谷委員 やるでしょう。

小熊委員 それができれば。

事務局 そうですね、ちょっと今、やりたい方向で考えておりますが、こちらもいろいろありまして。

神谷委員 問題はあれでしょう、そちらの異動がある可能性もあるわけでしょう、4月は。

事務局 それもあるのですけれども、予算がまだ。

井之浦社会教育課長 あと、すみません、実はお金のところがあるのですけれども、ちょっとその辺も、こちらはいろいろ出しているのですけれども、それがどうなるかがまだわからなくて、皆様に確実に4月というのが今、ちょっと言えなくて、心苦しいのですけれども。

神谷委員 なるほど。

山崎副委員長 大橋委員。

大橋委員 2月のその結果を見てからでもいいのではないですか。

神谷委員 そうですね。それを見てからでないといとも言いようがない。

大橋委員 だから、2月のそれを見せてもらって、どうするかというのをやっぱり話をしたほうがいいと思うので。

山崎副委員長 そうですかね、はい。

神谷委員 それで、必要に応じて3月にやるのか4月にやるのか、どっちにしてもこのフォーラムの前にやらないと、当日の、もちろん10時半に来いというわけだから、そこでの打ち合わせはできるけれども、これはもう、短いよね。

山崎副委員長 先ほど、各分科会のテーマというか、ポイントに合わせたグルーピングもという話であれば、ターゲットとするものがある程度決まらないと、多分、参加していただく方たちをどういうふうに割り振るかというのも、下手すると当日に決めることになってしまうので、それは避けたいと思いますから、その辺はちょっと日程を決めていただく段階で考慮していただくほうがいいですかね。

小熊委員 質問で、第一次計画の策定フォーラムのときの申込書とかを今、全然イメージがないので、わからないのですが、ただ、分科会の選択とかというのも、きっと用意するのと思

いながら考えているのですけれども、参加人数の規模はもうこの定員でフィックスのイメージですか、それとも、事務局としては多ければ多いにこしたことはないけれども、現実的にこのくらいということなのか、そのあたり、逆に、分科会のディスカッションの回しを考えたら、ここを定員とするということなのか、ちょっとそのあたりはどっちで今、人数を書かれているかというところ、現実的な見込みなのか、定員なのかということです。

山崎副委員長 どうでしょう。

事務局 現実的には、もしかすると、もうちょっと少ない可能性もあるのではないかと。ただ、これよりも若干多い分には全然いいのですけれども、これ以上もっと多くなってしまいますと、分科会が4つしかありませんので、そこでの割り振りの人数がすごく多くなってしまってもやりにくいと思いますので、多分、今想定しているよりは若干少ないとは思ってはおります。

森委員 前は10ぐらいだったのかしら。

神谷委員 前は、一次計画をつくるときは、活動領域別に分かれたから、分科会の数が多かったから、うまくいったんですよ。だけれども、今度は4つになると、小熊委員の心配されているように、本当、ある程度きちんと初めの段階からやっておかないと、混乱が起きるよね。

森委員 そうですね。前はたしか一般市民についても領域別で振り分けていましたよね。

神谷委員 そうです、領域別で振り分けです。

山崎副委員長 多分、今現在、参加予定で60名ぐらいになっているかと思うんですが、私たちも含めて。そうすると、各分科会、事務局、その辺は別にしても、十数名になるでしょうと。そうすると、十数名の意見をそれぞれのテーマに基づいて、いかにどういうふう引き出し、まとめるのかというのは、分科会でこの短時間でというと、一人一人何か話を聞いていたら、それで終わってしまうような気もしなくもないので、かなり綿密に計画を立てていかないと、一言しゃべっただけで終わってしまう人が出る可能性も出たりするので、うまくやらないとですね。

神谷委員 もうしゃべりまくりたい人っているの。

小熊委員 全員で1グループでやるのは、もう15名とかいう時点で無理かなと思ってはいますけれども、グループを割らないと無理ですよ。逆に、グループを割るなら、別に定員60人にこだわらなくても、来たい人はなるべく来てもらったほうがいいのではないかという気もしなくもない。ただ、あとは当日のスタッフ体制と。

大橋委員 分科会なんだけれども、これは子どもも入るわけですね。子どもも入って、それか

ら一般市民で、そうなってくると非常に難しいですね。人数がちょっと多過ぎるような気がします。専門家の中だったらこのぐらいでも、大体6人ぐらいがいい。

小熊委員 6～7人でやりたい気持ちはありますけれども。

大橋委員 子どもがいてということになってくると、これはもう一緒にはできないのではないですか。子どもは子どもと分けたほうが、僕はいいと思うのですけれども。そうしないと、やっぱり大人の考えと子どもの考えでは、やっぱり大分違って来るから、一つのところでは油と水のようになりかねないから、だから、子どもは子どもでもう分けておいたほうが、それでいろいろと聞くという形にして、そうしたほうがやっぱりいいと思うのですけれども。それで、もう少し人数を減らしたほうがいいような気がするのですけれども。

神谷委員 神谷です。今のご意見で言えば、最後にこれも検討してと言おうと思ったのは、子どもが参加するのであれば、子どもフォーラム、僕はよく担当して、やらせていただいたのですが、そういった分科会があつて、子どもの参画、テーマの中にあつたと思いますから、そういったことを子どもの意見を聞いて、そして、子どもたちがその意見をまとめながらということがあつてもいいのではないかと思います。だから、そうすると5つの分科会になって、子どもの意見は子どもの意見として尊重しようよという、それがあつてもいいよねというのを。というのは、大人に取り囲まれた子どもなんて意見を言わないから、それは無理で、しゃべりまくる大人がいたら、もう絶対子どもはしゃべらない。

山崎副委員長 山崎です。アンケートを実施した時点で、18歳以下については、18歳以上とはまた別な形のアンケートというか、意見収集になっているので、それからすると、神谷先生おっしゃるように、子どもについてはちょっと別枠でやったほうが、この趣旨に合った形で反映できるのでしょうか。実際、今回出していただいている子どもたちの意見をまとめていただいたものと、同じようにダブる形でこういうふうに意見が当日出てきて、まとまったものになるかどうかは全然、子どものことなので、わからないと思いますけれども、それはそれでまとまったものが出なくても、このアンケート自身も、何かまとめて分析するというものではないと先ほど課長もおっしゃっていましたから、それで言うと、そういう形で別に子どもの分をとって、大人は大人でそれぞれの課題に沿った形で、もう集中して何か実のあるものを出してもらおうというふうに色分けしたほうがいいのではないかという気はしますけれども。

大橋委員 大橋ですけれども、やっぱり一般の市民の方が参加するということになると、市民の方は大体、こうしてほしい、ああしてほしいということになってくる、要望になってくる

ので、ですから、今回のフォーラムの趣旨ということをもう少しちゃんとはっきりしておかないと、単なるニーズを表明する場になってくるから、ですから、これはやっぱり一般市民の人が入るといことになると、ある意味じゃ、もうそういうことに徹していくと、逆にもう、結局、量的にアンケートをとったわけだから、で、大体方向性というのは見えてきているわけだから、それに対して意見をいただくのか、それとも、ここに出てこない意見を、ですから、自由記述のところを実際に表明してもらおうという形にするのか、何かその辺ははっきりしてもらいたい。だから、さっきおっしゃったような、その辺がはっきりしておかないと、非常に混乱してしまう。本当に限られた時間でまとめるのは。ですから、ある意味じゃ、要望でも構わないから、ニーズを拾うと。結局、量的な調査で拾えないニーズを拾うと、そういう場に徹していくというほうが、わかりやすいと思う。

だから、具体的な施策云々については、これはもうやっぱり行政がやるべきことだから、そういういろいろな法的なとか財政的な面で制約があるから、それはもうそちらにお任せすると、しかし、実際に今回、このニーズ調査ではとれなかったものに対して、いろいろな意見を、ダブっても構わないと、いろいろとやっぱり表明してもらおうと、そういう方向でやったほうが、僕はいいような気がしますけれども。

以上で、いずれにしても、2月のデータがどういうものが出るか、それが楽しみ。

小熊委員 現実問題として、子どものグループを1個増やす、それは委員が担当できるのかという話もありますが、子どもとしての分科会を1個つくるというのは、今からであれば別に、部屋の確保の状況とかを含めて、できそうですか。

井之浦社会教育課長 もちろん、そういったことを含めて今日、ご意見をいただいていますので、今回こういう形で、先ほども言ったように、例示としてたたき台として皆さんにご提示させていただいていますが、委員の先生方がおっしゃるように、私自身は実は今回、無作為抽出でアンケート、今おっしゃったように、無作為抽出で意見を集約して、それがこの後で分析した結果として出てくると、でもって、これはパブリックコメントもやりますので、そういったことを考えると、フォーラムはもう少し人数を絞って、専門性を持ったメンバーをそれぞれに宛てがってやるというのも一つの方法と、私自身も思っているんですが、今日この場で、やっぱりそういったことも含めまして委員の皆様から意見が出ましたので、そこを含めてもう一回もんで、2月のそのアンケート結果の集計が出るときには、行政として、先ほど言ったように、この部分を拾ってほしいというのを提示するとともに、メンバーの抽出をどうするか。

今おっしゃったように、実は私もここにこうやって、とりあえずは皆様の意見を今日、聞くために、これを出しましたが、実は私も担当者には、子どもを入れて、大人と一緒に議論をさせて、意見が出ると思うかということは実は投げかけてはあったのです。その辺をどうクリアするつもりでいるのかと。少なくとも15人の子どもで、4つの分科会で均等に分けてしまったら、3人から4人、残り大人がばーんという中で、4人の子どもが意見を言えると思うかというのは、担当者にもちょっと私も聞いてみたところですけども、でも反面、子どもの意見を排除するといったら、またそれもそれで、何のために我々はいろいろな施設に行き、中学校に行き、高校に行き、子どもの意見を吸い上げてきたのか、それは子どもの意見が大事だという、その一点から、わざわざ職員がそこに出向いて、コミュニケーションをとりながら意見を聴取したという、私もいろいろなところの課に行き、いろいろなこういった計画策定に、ありましたけれども、そういったところに職員が直接飛び込んで、こうやってコミュニケーションをとりながら意見をとりというところまでやっていたということは、余り私の記憶ではないので、その部分では、私は非常に今回、このアンケートを取るに当たっては、職員は頑張ってくれたとは思っています。それがあから、やっぱりフォーラムの中でも、子どもというのを入れたいのだろうという意味では、それはそれで私も理解したのですが、今言ったように、子どもの意見を取りたいとして、その子どもの意見がこのやり方で出ると思うというのは、私もちょっと疑問に思ったので、担当とはその部分は実は、今後どうしていこうかという話はしていたところです。

ただ、今日はこの段階ではこういった形で皆様にお示しして、案の定、やっぱりそういった、子どもをここに並べることはどうでしょうという意見もいただきましたので、それを含めまして、改めてまた、分析結果とともに、こういった形のフォーラムを担当課として意見を集約してもらいたいのかということも含めて、2月までにはきちんとした形でまとめたいと思いますので、まずはアンケート結果の分析を見た中で、そこが出发点なのかなとも思っていますので、ちょっとその辺は、そのときまで答えはちょっとお待ちいただけたらと思います。

ただ、考え方としては、私は今そのように、そのような考え方も持っていますので、そこには、今言ったような形では幅は振れる話ですので、ですから、小熊委員が言ったように、子どもは子どもで別枠で5つの分科会で、要するに基本目標4つとは別に、子どもたちはどう考えているのかという、全体の中でそういった話をとるとということも一つの方法として、当然あると思いますので、それを別にやっていくとかいうことも含めて、またちょっと内部

で協議、もませていただきたいと思いますので。

山崎副委員長 わかりました。

山口委員 今、課長のお話を聞いて、非常に安心しまして、よかったと思っているのですけれども、もし子どもに焦点を当てて、別グループをつくるとすればの話ですけれども、質問の仕方とかも多分、工夫されたほうがよいと思うので、2月にアンケート結果とともに、子どもに対する質問の仕方、例えば、年齢にもよると思うのですけれども、小学生であれば、どんな図書館が欲しいとか、どんな公園が欲しいというのだろうし、そういうふうな聞き方とか、中学生、高校生に対しては、勉強する場で今足りないものは何か、そういう質問の仕方が多分、対象の年齢によって違うと思うので、そこら辺を一緒に、どういう年齢を抽出してどういった質問をするのかというのも、意見が出やすいようなものをちょっと選定していただいたほうがいいのではないかと思います。

井之浦社会教育課長 ありがとうございます。実は、今回の13歳から17歳のアンケート調査のときも、我々がつくったアンケートの案はえらくだめ出しをされまして、いろいろ直させていただいたところであります。今回も、もし子どもは子どもとしてというような形になったときは、教育委員会単独でやるのではなくて、子ども部のほうと協力をお願いしながら、どういった形でとれば、そういった本音が、居場所にもつながってくると思いますので、そういったところも含めてやっていきたい。どういうふうに振れるかはまだ、今後の協議にもよるし、委員の皆様のお話にもよるのですが、一応、今おっしゃられたような皆さんの意見を踏まえて、やり方ということに関しては、私自身、先ほど説明したようなふうにも思っていますし、振れる幅はあると思っていますので、その中で今の意見も含めて、考えさせていただきたいと思います。

齋藤委員 最初に質問したときから、アンケートが全てだということで、ほかの委員のお話を聞いて、少しずつイメージを膨らませてきていたのですけれども、まだ、やっぱりそのアンケートが出てこないと決められないですけれども、例えば、さっきの子どもの件に関しても、それぞれの分科会で子どもだけの小集団をつくって、例えばKJ法でも何でもやらせるのなら、それで反映できると思いますし、子どもの意見を拾いたいというのであれば、子どものアンケートの中から出してもらったのを専門家が協議するという方法も、幾らでもあると思います。ですので、2月のものが出てこないと思ったのですが、いろいろイメージとしては膨らみました。要するに、分科会の中で小集団を幾つかつくって、何らかの方法で意見を吸い上げる方法もあるし、現実的には、子どもだけのグループの中でその4つの分科会の内

容をやるというのは無理があると思うので、それは現実的ではないと思うので、先ほど言いましたように、子どもの意見の中から専門家が話し合うとかという方法でも補えるのではないかと思いますので、ご検討いただければと思います。

井之浦社会教育課長 ありがとうございます。

神谷委員 最後に一言。ぜひ、皆さんはこれのご担当の方として、子どもの意見を吸い上げたという意味では誇りを持っていただきたいと私は思っています。やはりそういったことを本当に、まだ入り口だと思います、でも、そういう子どもの声が直接反映される、それは、子どもわかもの課でも同じことを考えてきていたし、そして、そういう意味で、どういう居場所があったらいいかというフォーラムを3回続けて、小学校5年生以上だと、その意見は非常に活発です。大人はいないほうがいいとか、もうストレートに出る。必要なときだけ来てくれとか、しっかりした意見を持っています。ですから、そういったことを踏まえて、ぜひ、いいことの入りを皆さんが切り開いたよと、だから、ぜひ切り捨てないでいただきたいということだけお願い申し上げたいと思います。

大橋委員 一通りニーズ調査が終わった後に、いわゆる一般市民の方に入ってきてもらうということになってくると、そのときは2つの見方があって、1つは、今までやってきた、これは新しい、初めてじゃないわけで、今まで継続してきたものだから、それと、今回もデータが出ていることに対して、それに対して市民の方の意見を聞く、それによって、そのデータの信憑性とか、それをもう少し検証していくということと、それからもう一つは、2つの見方の2番目は、その漏れたところを拾うという、その2つが、この計画はもうある程度練られて、そういう段階で市民の方が入ってくるということになると、ゼロではないので、もう既にやってきた、それから今回のデータに対してどう検証するかと、それは市民の目からどうなのだと、これはもうパブリックコメントでもやるわけだけれども、ある意味では、その裏づけをとるとということにもなる。それから、もう一つは、その漏れた点、それを拾うと、ある程度、その辺にもう話を持っていくという形にしたほうが、限られた時間が有効に使えると思うので、その辺ちょっと検討していただければと思います。

山崎副委員長 ありがとうございます。

小熊委員 すごく実質的なディスカッションで、よかったなと思った上で、最後につまらない話なのですが、これ、1時開会になっていますけれども、12時半受け付け開始、1時開会って、それこそ子どもたちの参加を含めたら、結構ハードル高いと、参加しづらいと思うので、ちょっと考えたほうがいいと思います。1時にスタートするということは、12時40

分ぐらいにはここにいなきゃいけないということになるから、そうすると、食事を取らせて子どもを連れてくるのいつになるのか、みたいな話になりますから、そこは開始時間の検討はしていただいたほうがいいと思います。

山崎副委員長 子どもは大体、年代的にはどれくらいを想定してというのは、まだ全然、動く話だとは思いますがけれども。

井之浦社会教育課長 基本的には、母数になったアンケート調査の一番下のほうの18、19ぐらいの年代を子どもとして捉えている、でいいのかな。13から17は対面式で言葉をかけながらとったので、その集約したものが既にそこにありますので、無作為でやったほう、先ほど申し上げたように、子どもとって13歳だと、やっぱり大人に囲まれると、意見とかというのは、やっぱりきちんとしたディスカッションということになると、大人にまじってディスカッションということになると、神谷先生がおっしゃるように、自分の意見はちゃんと持っているのだけれども、なかなか15歳だと難しいかなというところもありますし、アンケートの母数の一番下が18歳からなので、18歳、19歳ぐらいのところを子どもとして考えています。

神谷委員 子どもだから18歳まで。

井之浦社会教育課長 18歳だそうです。

森委員 19歳はもう大人、子どもの権利条約の対象者というのは18歳以下です。なので、割と国際的には子どもというのは18歳以下を考えて。それで、多分こちらのほうのアンケートもそのようなことでつくられたのではないかと考えております。

小熊委員 18歳、19歳だったらまぜてしまっていていいと思いますけれども。15歳ぐらいだったら、まあ分ける意味はあるかなというところで、ちょっとその認識は。

森委員 小熊君ジュニアみたいな子がいるかもしれない。

神谷委員 イメージは中高生だよな。

小熊委員 中高生だったらまだ、15がアベレージとして。

神谷委員 中高生というイメージでいいのではないかな。

三島委員 話の中身ではなくて、やり方のほうの話ですけども、これもファシリテーターをされる方の考え方とかやり方次第なのかもしれないんですが、参加者がかなり活発に意見を言いやすいグループの規模だと多分、4～5人くらいになるのかなと。そうすると、4～5人1チームにつき、ケアする人は1人、あるいは1.5チームで1人くらいのイメージでいくと、ちょっと社会教育委員のメンバーだけで足りるかどうかなという部分も、グループのつく

り方によっては、あるかと思うので、その辺も今度、補強していただいた案を見て。

神谷委員 グループワークでいうと、僕の専門領域なので申し上げますと、8人を超えたらもう議論ではないです。8人までです、大体。1グループは8人ぐらい。理想的なのが6人。6から8、大人だったらそのぐらいでおさめないと活発な意見は出ません。もっと深い議論と言われれば、先生おっしゃったように5人ぐらいということになります。

山崎副委員長 そうですね、では、参加者の人数をどの程度にするか、それから、子ども、そのほか一般市民も含めて、どの程度の方に来ていただいて、グルーピングをどういうふうにするのかということも、まだちょっといろいろと検討していただく必要があると思います。今日の意見を踏まえて、また担当課としてご検討いただけたらと思います。

そろそろ時間ですので、この辺で打ち切りたいと思います。

では、議事の第二次松戸市社会教育計画に係るアンケートの結果報告についてと、議事の3、第二次松戸市社会教育計画に係るフォーラムの開催について、への意見等については、とりあえずここで終わりにしたいと思いますが、よろしいでしょうか。もし個別に何か気づいたことがありましたら、担当課のほうに直接言っていただけたらと思います。

では、次回の会議では、先ほどから出ておりますけれども、分析後のアンケート報告書が示されると思いますので、それをもとに私たちのところで検討して、それぞれの議題、どれについてフォーラムのほうで議論してもらおうのかということについても具体的に詰めていきたいと思っておりますし、実際のフォーラムについても、もっと具体的な、今日の意見を踏まえたものが出てくると思いますので、それについても最終的に、これで行けるかどうか、私たちが担当しますので、行けるかどうかも含めて詳細に検討して、最終的な実施案のほうまで持っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

では、以上で本日の議題、終了いたしましたので、議事の進行は事務局のほうにお返しいたします。よろしくお願ひいたします。

事務局 それでは、最後、その他といたしまして、1点だけ報告がございます。

次回の会議の連絡事項になりまして、開催は2月を予定しております。内容につきましては、今、副委員長からもございましたけれども、フォーラムの関係と、アンケートの調査報告書、骨子について議事としたいと考えております。あと、その他、千葉県社会教育振興大会の報告と、成人式の報告がございます。日程につきましては、また決まりましたらご連絡させていただきますので、よろしくお願ひいたします。

事務局からは以上になります。

大橋委員 大体2月はいつごろ予定ですか。

事務局 今のところ、10、13、14あたりと考えています。

◎閉 会

事務局 これをもちまして、令和元年度第4回社会教育委員会議を終了いたします。

本日はどうもありがとうございました。

閉会 午後8時00分